

# 令和5年度の研究成果と課題

授業における学習評価の方法には  
どのようなものがありますか？



# 令和4・5年度 校内研究

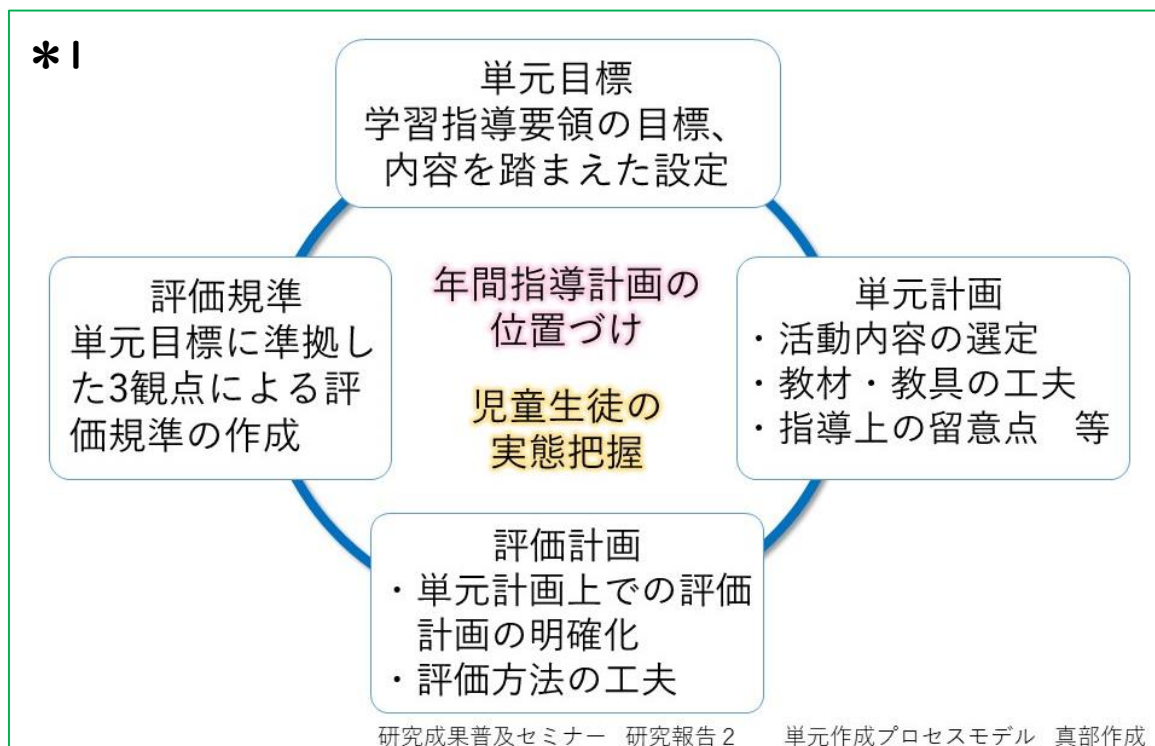
# ●令和4年度 研究の課題

- ・目標の設定方法、各教科の「単元づくり」のプロセスについて、全体で共通理解を図る必要がある。

令和5年度、学部研究を通じて、集団授業の単元づくり、授業実践について考えることとした。

# ●「ふじざぐらの実践」に関して

## 「知的障害教育における単元づくり」について



\*1 令和5年度 第2回全体研究会及び校内研修会資料「学習指導要領の目標・内容を踏まえた単元作成と学びの充実を目指したカリキュラム・マネジメント」（講師：国立特別支援教育総合研究所 研究企画部総括研究員 横尾俊先生）より引用。

# 単元目標の設定

- 学習指導要領で示す各教科等の目標・内容を踏まえて、育成を目指す資質・能力の3つの柱で設定する。 ※本校では、知、思、学と記す。
- ・ 単元で取り扱う内容によっては、児童生徒の達成状況を想定して設定する。
- ・ 実態差のある集団の場合、それぞれの段階ごとに目標を設定する。

## 評価規準の設定

- 単元目標に準拠した観点別の評価規準を設定する。※本校では、知、思、態と記す。
- ・ 単元で取り扱う内容によっては、児童生徒の実態、教材・教具を踏まえ、具体的に設定する。

## 評価の基準

◎よくできた、○できた、△もう少し

## 単元の反省

- 単元計画を全て履行した時点で、単元の総括評的評価をして授業改善につなげる。



# ●成果

- ・集団の授業計画及び個別の指導計画の作成を通じて、学習指導要領に規定される観点別学習状況の評価に関する理解が促された。

# 指導と評価に関する各種様式

# ● 学習指導要領の全面実施

- ・令和6年度より  
小学部第1学年から高等部第3学年まで

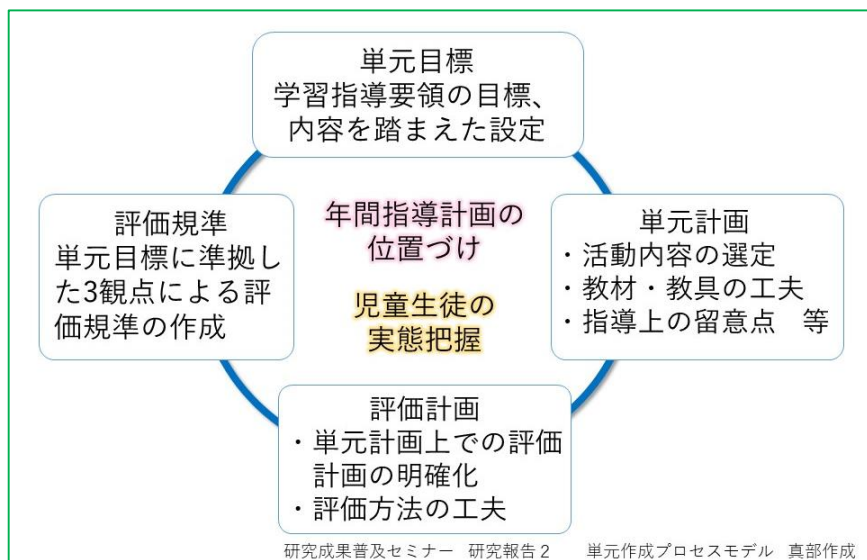
\* 高等部の移行措置期間の終了

成績関係各種様式の「確定」を見据え  
校内研究を進めてきた

☞ 2027年以降、学習指導要領の改訂が見込まれる。

\*令和5年度 第2回全体研究会及び校内研修会における講師 国立特別支援教育総合研究所 横尾俊先生からの指導助言を受けて

# ●年間授業計画 個別の指導計画の様式（改訂）



・単元作成のプロセスは、  
旧様式と同一である。

# 単元目標の設定

## 【改訂様式のポイント】

- ・単元で取り扱う内容によっては、児童生徒の達成状況を想定して設定する。
- ・実態差のある集団の場合、それぞれの**段階**ごとに目標を設定する。

目標の段階を i、ii、iii とし、  
集団を構成する児童生徒の実態に応じて  
目標を設定する。

# 単元目標（評価規準）

- ・評価規準は、目標に準拠するという考え方を根拠とし、**目標とは別に表記しない**。

※評価場面、評価方法は、学習指導案に示すこと。

授業計画の単元の目標と指導案の本時の目標のつながりを意識する。

# 評価の基準

## <旧様式>

◎よくできた ○できた △もう少し

## <改訂様式>授業計画／個別の指導計画

十分 達成	概ね 達成	もう 少し
○		

十分 達成	概ね 達成	もう 少し
	○	

十分 達成	概ね 達成	もう 少し
		○

- ・該当する基準を選択する。

# 評価の基準

## <改訂様式>通信表

よく できた	できた	もう 少し
○		

よく できた	できた	もう 少し
	○	

よく できた	できた	もう 少し
		○

- ・該当する基準を選択する。



# 記述評価

- ・令和4年度研究の課題の1つに「具体的な記述評価の必要性」があげられた。

## <改訂様式>

- ・項目【評価につながる具体的な様子、学習状況】を新設した。

これら各種様式は、次期学習指導要領改訂までは見直しを行わないこととしたい。

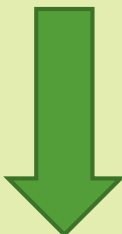
# ● 各種計画・評価の流れ

授業計画

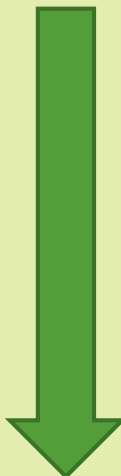
(旧)



個別の指導計画



通信表



指導要録

授業計画／個別の指導計画①

個別の指導計画②

(新)



個別の指導計画①②が  
通信表となる(書き換え×)



指導要録

# 令和6・7年度 校内研究

# 令和6・7年度 ICT教育推進

## ICTを活用した授業づくり実践研究校事業

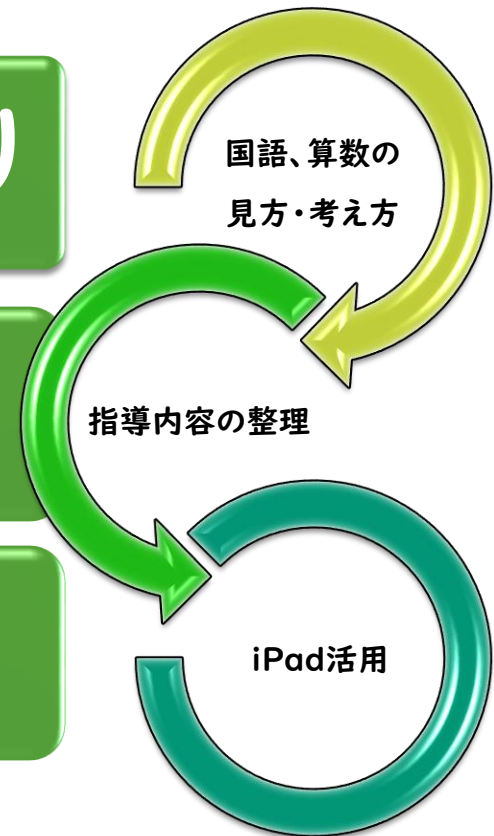
### iPadを活用した授業づくり

1  
年目

国語、算数、自立活動  
(数学)

2  
年目

\*集団授業



# ●令和6年度 校内研究

- 本校における国語、算数(数学)の指導内容を次の視点で整理し、スタンダード化する。

## 学習指導要領

小学部 1段階、2段階、3段階

中学部 1段階、2段階

高等部 1段階、2段階

どのような基礎研究が必要となるのか？

# ● 留意点

## pDcAサイクル

### Dがしっかりできるためのp

- ・ 児童生徒の実態に関する学部、学年、学習グループ内での情報共有。
- ・ 学習指導要領に示される各教科の見方・考え方を踏まえ、教科横断的に「生きる力」を育むことを目指した授業実践。

Dの充実のための基礎研究